

TAC中小企業診断士講座 合格サポート定期便

(2015年 3月号)
～経済学過去問学習法～

※無断転載・複写を禁ず。

スルツキー分解(価格効果)出題表

年度	問題	難易度	出題内容
H22	2-2	C	異時点間消費貯蓄
H23	18	C	2財消費(補助金)
H24	17	B	2財消費
H25	13	D	異時点間消費貯蓄
	14-1	D	余暇・労働所得
	14-2	C	(比例税・一括税)
	19	C	私的財・公共財
H26	16	A	2財消費

必要知識	ポイント	選択肢数
無差別曲線	「同効用の消費組合せ」 ・無差別曲線は無数に存在する ・右上ほど高効用(単調性成立時)	6 (その他8)
予算制約線	「予算内で消費可能な2財組合せ」 (予算集合) ・切片: 予算を全て一財消費に向けた時の購買可能数量 ・傾き: 両財の価格比 ($-P_X \div P_Y$)	11
最適消費点	・無差別曲線と予算制約線の接点	8 (その他4)

必要 知識

ポイント

選択 肢数

価格 効果

- 「一方の財の価格の変化が
両財の消費量に与える影響」
- ・価格効果 = 代替効果 + 所得効果
 - ・ギッフェン財： 価格上昇 → 消費増加

4
(その他
4)

代替 効果

- (価格変化により)
「割安になった財の消費量が増え、
割高になった財の消費量が減る」

6

所得 効果

- (価格低下 → 実質所得増加のとき)
- ・消費増加 → 上級財
 - ・消費減少 → 下級財

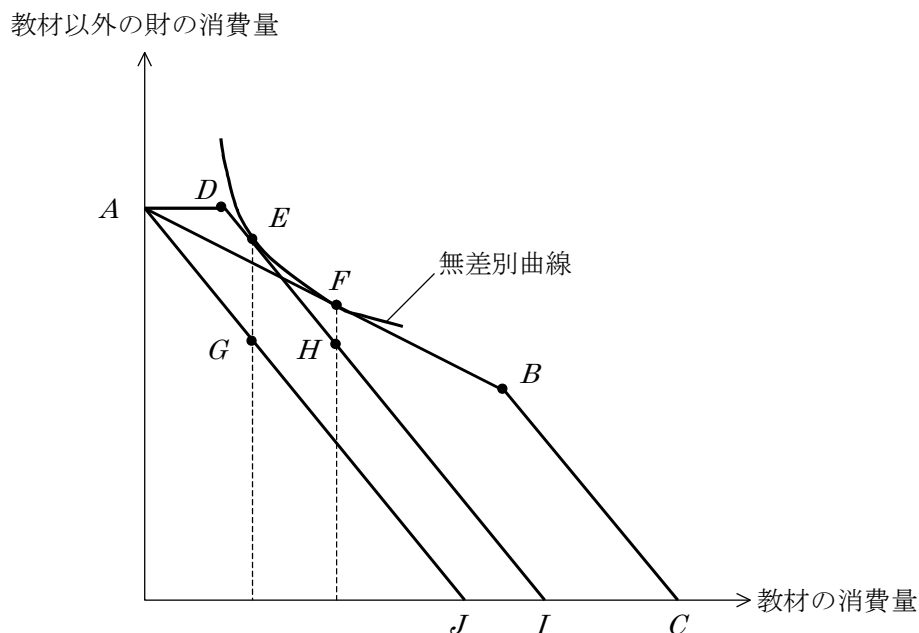
7

平成23年度第18問

いま、ある個人は、図中にある線分 AJ が示す予算制約の中で学習用の教材を購入するか、他の財を購入することができる。政府は、この個人による学習用の教材の購入に対して以下の2つの方法で支援を行うものとする。なお、 ADI 線上の点 E と ABC 線上の点 F は、同一の無差別曲線上にある。

- (1) ABC 線が示すように、 B 点の水準までの教材の消費量に対して、その費用の一定割合を政府が負担する補助金の制度。
- (2) ADI 線が示すように、 D 点の水準までの教材の消費量に対して、その費用の全額を政府が負担する補助金の制度。

図の説明として、最も不適切なものを下記の解答群から選べ。



〔解答群〕

- ア 個人の教材への支出が過小になりがちであると政府が評価しているならば、政府は(1)の制度を採用すべきである。
- イ 個人の効用を下げることなく、政策費用を削減したいならば、政府は(2)の制度を採用すべきである。
- ウ 点 D から点 H までの長さは、(2)の制度を選択した場合に、政府が支払うべき補助金額を示している。
- エ 点 F から点 H までの長さは、(1)の制度と(2)の制度を比較したとき、個人の効用を下げることなく、政府が削減できる費用の大きさを示している。

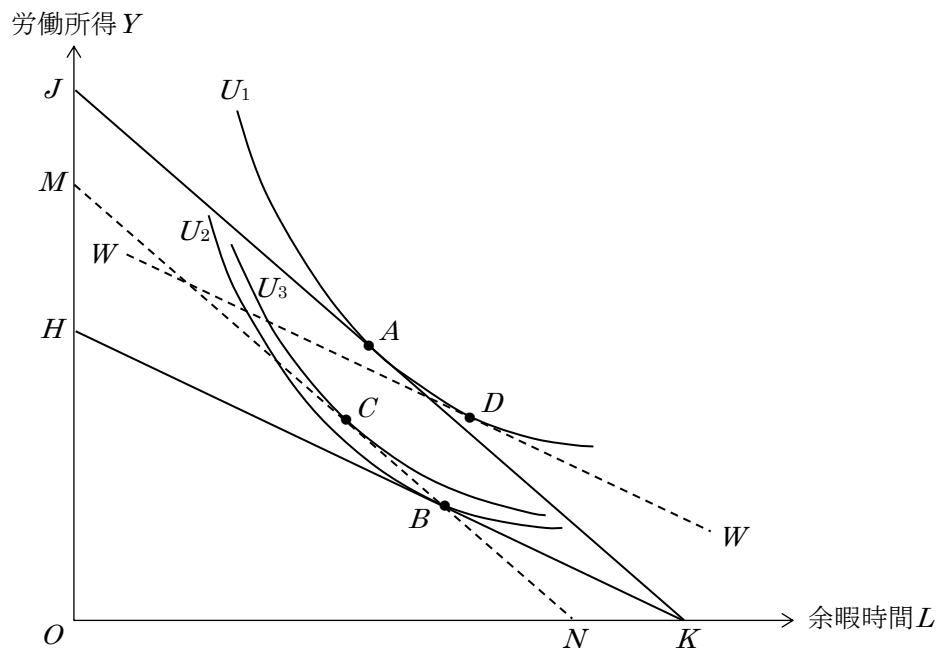
【正解】ウ

平成25年度第14問

次の文章を読んで、下記の設問に答えよ。

いま、余暇時間 L と労働所得 Y からのみ効用を得るような個人を考える。余暇時間の増加は、24 時間のうち労働する時間が減少することを意味し、賃金率 $\times$ 労働時間で与えられる労働所得が減少するという関係にある。下図では、この個人が直面する予算線は JK であり、無差別曲線 U_1 と接する点 A で最適な余暇時間と労働所得の組み合わせが与えられている。

この状態から、政府が労働所得に比例税率 α を課したとき、予算線は HK へ変化し、最適点は、 HK と無差別曲線 U_2 が接する点 B によって与えられる。点線 MN は、政府が一括税を課した場合の予算線であり、 JK と平行で点 B を通るように描かれており、点 C で無差別曲線 U_3 と接する。点線 WW は、 HK と平行で無差別曲線 U_1 と点 D で接するような補助線である。



(設問 1)

この図に関する説明として、最も適切なものはどれか。

- ア 線分 HO の長さを線分 JO の長さで除した値は、賃金率となる。
- イ 線分 KO の長さを線分 JO の長さで除した値は、労働所得に課される比例税率 α となる。
- ウ 線分 MN が示す一括税は、線分 HK が示す比例税よりも、この個人が合理的に選択する労働時間を短くする。
- エ 点 B の税収は、点 C の税収と同じである。

(設問 2)

政府が労働所得に比例税率 α を課すと、最適な余暇時間と所得との組み合わせは、点 A から点 B へと移る。所得への課税が余暇時間に与える影響を、「代替効果」と「所得効果」とに分けた記述として、最も適切なものはどれか。ただし余暇は、下級財ではないものとする。

- ア 「代替効果」は相対的に高くなった余暇時間を増やす点 A から点 D への変化で表され、「所得効果」は点 D から点 B への変化で表される。
- イ 「代替効果」は相対的に安くなった余暇時間を増やす点 A から点 D への変化で表され、「所得効果」は点 D から点 B への変化で表される。
- ウ 「所得効果」は点 A から点 D への変化で表され、「代替効果」は相対的に高くなった余暇時間を減らす点 D から点 B への変化で表される。
- エ 「所得効果」は点 A から点 D への変化で表され、「代替効果」は相対的に安くなった余暇時間を減らす点 D から点 B への変化で表される。

【正解】(設問 1) エ、(設問 2) イ